

令和元年度 学校運営協議会（第1回）議事録（HP用）

- 1 日 時 令和元年6月18日（火） 14:15～16:00
- 2 場 所 本校 校長室
- 3 参加者 協議会委員：保護者、地域住民。学識経験者等6名
本校教職員：校長、教頭、事務長、首席（兼教務部主任、第二主学年任）保健主事、生徒会部主任

4 内 容

- (1) 委員長選出
- (2) 委員長挨拶
- (3) 学校長挨拶
- (4) 授業見学
- (5) 議 事

◆ 令和元年度 学校経営計画

- ・新学習指導要領を踏まえ『基礎学力の向上と定着』『思考力・判断力・表現力等の育成』『主体的で対話的な深い学び』となる授業ができるよう授業改善に努める。
- ・これまで行ってきた図書館の整備に引き続き力を入れていきたい。また生徒に活用してもらうための働きかけを考えたい。
- ・基礎学力の向上と定着のために、PC教材を図書館に設置し、自学自習において生徒の学び直しができるよう活用する。
- ・『総合的な探究の時間』とLHRを活用し、キャリア教育を通して将来の自分の生き方を設計できる力をつけさせたい。
- ・1年生のクラブ加入率が低かったものの部活動や体育大会・文化祭などの学校行事を通して生徒の主体性を育みたい。
- ・学校は全般的に落ち着いてきているので基礎学力の向上に力を入れていきたい。
- ・支援を必要とする生徒情報を各学年から集約し、週1回支援会議を通して、きめ細かく生徒の支援を行うことができるように取り組む。
- ・働き方改革の観点から、組織の見直しを行った。時期により業務過多となる部分は学校全体がチームとして業務にあたるよう取り組む。
- ・地域の国際交流を推進する団体と提携し、国際理解教育を進める。

◆ 学校教育計画

○全体として

- ・校内組織図について
働き方改革として6つの分掌から5つの分掌にスリム化を実施し、これまで総務部が担っていた業務と人員を分配した。
クラス数が多かったときと同じ組織構成では業務量と人員数で不一致が生じ、時期によっては負担が大きくなるために学校全体で組むことにより業務の平準化が可能となる。
- ・人権教育委員会・いじめ防止委員会について
月曜日に学年会議、火曜日に人権教育委員会、水曜日に支援教育委員会を通して様々な生徒に対して支援ができる体制を整えている。
生徒の実情としては懲戒にかかる事象は減っているが、SNS上でのトラブルは激増している。
学習支援員を3名配置しており、図書館での貸し出し業務だけでなく自学自習のサポートや授業に入り込むことも今後必要に応じて行っていきたい。

○学習指導

- ・今年度の行事予定の変更点としては体育大会を9月下旬から6月上旬に、冬季に行っていた修学旅行を10月中旬に、10連休の影響による遠足・球技大会の未実施など、大きく3点が挙げられる。
10連休やサミットによる影響で1学期は授業時間の確保に苦労した。
- ・教育課程については大きな変更はないが、今年度の1年生から『総合的な探究の時間』が変わった。これまで以上に探究の要素を取り入れ、評価に繋げていく方法をより良いものにするために試行錯誤している。

○生徒会活動

- ・今年度からラグビー同好会がラグビー部に昇格し、運動部が16部、文化部が15部となった。
- ・今年度も新入生歓迎会、2日間の部活動体験を実施し、1年生のクラブ加入率を上げる取組みを行った。しかし、10連休の影響からなかなか入部の定着に至らず、加入率は例年に比べて低い。夏休みを前にもう一度クラブ活動に参加するよう呼びかけを行いたい。

○生活指導部

- ・今年度、以下の3点の規則の見直しを行った。
 - 1点目は、携帯電話の校内への持ち込みを認めていなかったが、下足室までの持ち込みを認めた。2点目は取得時の申請で原付免許の取得のみ認めていたが、原付免許の限定を取り払った。3点目はアルバイトを行う際は許可申請をしていたが、申請は行わず、実態を把握するために年2回のアンケートに変更した。
- ・年間の遅刻数は大阪府立の高等学校でも大変少ない。しかし、欠席日数は減少しておらず、この点については課題である。
- ・授業の中抜け、無断早退、服装違反などは数年前に比べると見られなくなったが、一方で頭髪違反、化粧などの指導は後を絶たない。また SNS 上での不要な書き込みや画像投稿などによるトラブルが増えており、正しい利用方法については粘り強く注意喚起していきたい。
- ・通学マナーについての苦情や登下校中の交通事故が増加したことから、今年度は登下校指導にも力を入れている。
- ・近隣商店からの苦情が増加しており、状況に応じて利用制限を設け、周囲に迷惑をかけないマナー指導を行う。

○進路指導部

- ・4 1 期の進路状況として進学が少し減った。例年に比べ4年制大学に挑戦した生徒が少なかった。また定員数の厳格化が影響して一般入試が特に厳しかったように思う。
- ・専門学校について、これまで本校からはなかなか合格が得られなかった看護専門学校に2名が合格した。生徒自身が合格に向けて努力を重ねたことと昨今の看護専門学校の易化が合格に繋がった要因と考えることができる。
- ・就職について、40%強の生徒が就職をした。一次合格率は昨年に比べ高くなり今年度も生徒にとって有利な状況であった。

◆ 授業アンケート

- ・一学期中間考査時と二学期中間考査時、年間二回実施。
- ・9つの観点についてのアンケート。
- ・アンケート結果は今後の授業への反映できるよう自由記述も含め個々の教員に返却。
- ・1回目が終了した。次の協議会で分析結果をお知らせしたい。

◆ 質疑応答

修学旅行の実施時期、体育大会の実施時期、携帯電話所持、この3点が今年度の大きな変更だったように思われる。そこに至った理由を伺いたい。

またこの変更については、とてもスピード感があり賞賛に値する。

《学校側の回答》

◇修学旅行：これまでの冬季実施においてインフルエンザの流行から、複数名の生徒が罹患により参加できないことがあった。

またこれまでの沖縄は中学校での修学旅行の行先と重なることもあり、訪れたことが少ないと思われる北海道を行先とした。

◇体育大会：9月実施であったが、第3学年の進路指導（AO入試や就職試験）と時期が重なっていた点と台風などの天候の影響を受けやすいことから時期の見直しを行った。

◇携帯電話：昨年度、地震や大雨などの大きな災害があったことから、緊急時、通学途上における生徒の安否確認ができるよう登下校中の所持を認めることとなった。しかし、これまでと同様に校内での使用禁止は変わっておらず、学校生活において大きな変化は見られない。きっちりと施錠したロッカーにしまっておくといった管理方法を徹底したい。

登下校中の使用についてはこれまで苦情があった場所など近隣での使用制限を行っている。しかし使用制限を行っていない商店から多数の苦情が寄せられる現状がある。今後の課題は使用におけるマナー指導に注力することが必要であると感じている。

◆ 学校運営協議会委員よりの意見

- ・授業に対して無気力な生徒の数が減少しているように感じた。ICTの導入や教員の工夫が功を奏していると思われる。
また学年によりクラスの雰囲気が変わり高校生活の3年間を通しての成長を感じた。
- ・授業の雰囲気がとても良い。生徒と教員の関係の良さを感じた。
生徒の個性を伸ばす授業、生徒が主体的に学ぶ授業、生徒の話し合いの中で学ぶ授業、これを2022年新学習指導要領の実施までに準備し取り組んでほしい。
- ・図書館の設備がここ数年で大きく変わった。後援会も図書の実に協力していきたい。
- ・学校教育において環境整備やその活用は重要なことだが、同時に生徒の主体性を育むことも大切にしていきたい。

- ・落ち着いた雰囲気で行われており、生徒が集中して授業を受けることができている。また体育の授業では大きな掛け声で走っており整然とした様子に驚いた。小学校・中学校では活動型体験学習を中心に授業を展開しているが高等学校でどれほど取り入れられているか伺いたい。

《学校側の回答》

生徒が主体的に学ぶことができるようグループワークや調べ学習、プレゼンテーションを積極的に取り入れている。

◆ 学校長閉会の挨拶

※ 第2回は11月頃を予定